

特 許 協 力 条 約

PCT

REC'D 17 JUN 2004

WIPO

PCT

特許性に関する国際予備報告（特許協力条約第二章）

（法第12条、法施行規則第56条）

〔PCT36条及びPCT規則70〕

出願人又は代理人 の書類記号 SFTI0026	今後の手続きについては、様式PCT/ IPEA/ 416を参照すること。	
国際出願番号 PCT/JP03/16741	国際出願日 (日.月.年) 25.12.2003	優先日 (日.月.年)
国際特許分類 (IPC) Int. Cl <sup>7</sup> A41D13/00		
出願人 (氏名又は名称) 株式会社セフト研究所		

- この報告書は、PCT35条に基づきこの国際予備審査機関で作成された国際予備審査報告である。  
法施行規則第57条（PCT36条）の規定に従い送付する。
- この国際予備審査報告は、この表紙を含めて全部で 4 ページからなる。
- この報告には次の附属物件も添付されている。
  - ☐ 附属書類は全部で \_\_\_\_\_ ページである。
    - ☐ 補正されて、この報告の基礎とされた及び／又はこの国際予備審査機関が認めた訂正を含む明細書、請求の範囲及び／又は図面の用紙（PCT規則70.16及び実施細則第607号参照）
    - ☐ 第I欄4.及び補充欄に示したように、出願時における国際出願の開示の範囲を超えた補正を含むものとこの国際予備審査機関が認定した差替え用紙
  - ☐ 電子媒体は全部で \_\_\_\_\_ (電子媒体の種類、数を示す)。  
配列表に関する補充欄に示すように、コンピュータ読み取り可能な形式による配列表又は配列表に関連するデータを含む。(実施細則第802号参照)

4. この国際予備審査報告は、次の内容を含む。

- ☒ 第I欄 国際予備審査報告の基礎
- ☐ 第II欄 優先権
- ☐ 第III欄 新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についての国際予備審査報告の不成
- ☐ 第IV欄 発明の単一性の欠如
- ☒ 第V欄 PCT35条(2)に規定する新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についての見解、それを裏付けるための文献及び説明
- ☐ 第VI欄 ある種の引用文献
- ☐ 第VII欄 国際出願の不備
- ☒ 第VIII欄 国際出願に対する意見

国際予備審査の請求書を受理した日 27.01.2004	国際予備審査報告を作成した日 26.05.2004		
名称及びあて先 日本国特許庁 (IPEA/JP) 郵便番号100-8915 東京都千代田区霞が関三丁目4番3号	特許庁審査官 (権限のある職員) 水野 治彦	3B	9254
電話番号 03-3581-1101 内線		3320	

様式PCT/ IPEA/ 409 (表紙) (2004年1月)

## 第 I 欄 報告の基礎

1. この国際予備審査報告は、下記に示す場合を除くほか、国際出願の言語を基礎とした。

☐ この報告は、\_\_\_\_\_語による翻訳文を基礎とした。  
それは、次の目的で提出された翻訳文の言語である。

☐ PCT規則12.3及び23.1(b)にいう国際調査

☐ PCT規則12.4にいう国際公開

☐ PCT規則55.2又は55.3にいう国際予備審査

2. この報告は下記の出願書類を基礎とした。(法第6条(PCT14条)の規定に基づく命令に応答するために提出された差替え用紙は、この報告において「出願時」とし、この報告に添付していない。)

☒ 出願時の国際出願書類

☐ 明細書

第 \_\_\_\_\_ ページ、 出願時に提出されたもの

第 \_\_\_\_\_ ページ\*、 付けて国際予備審査機関が受理したもの

第 \_\_\_\_\_ ページ\*、 付けて国際予備審査機関が受理したもの

☐ 請求の範囲

第 \_\_\_\_\_ 項、 出願時に提出されたもの

第 \_\_\_\_\_ 項\*、 PCT19条の規定に基づき補正されたもの

第 \_\_\_\_\_ 項\*、 付けて国際予備審査機関が受理したもの

第 \_\_\_\_\_ 項\*、 付けて国際予備審査機関が受理したもの

☐ 図面

第 \_\_\_\_\_ ページ/図、 出願時に提出されたもの

第 \_\_\_\_\_ ページ/図\*、 付けて国際予備審査機関が受理したもの

第 \_\_\_\_\_ ページ/図\*、 付けて国際予備審査機関が受理したもの

☐ 配列表又は関連するテーブル

配列表に関する補充欄を参照すること。

3. ☐ 補正により、下記の書類が削除された。

☐ 明細書 第 \_\_\_\_\_ ページ

☐ 請求の範囲 第 \_\_\_\_\_ 項

☐ 図面 第 \_\_\_\_\_ ページ/図

☐ 配列表 (具体的に記載すること) \_\_\_\_\_

☐ 配列表に関連するテーブル (具体的に記載すること) \_\_\_\_\_

4. ☐ この報告は、補充欄に示したように、この報告に添付されかつ以下に示した補正が出願時における開示の範囲を越えてされたものと認められるので、その補正がされなかったものとして作成した。(PCT規則70.2(c))

☐ 明細書 第 \_\_\_\_\_ ページ

☐ 請求の範囲 第 \_\_\_\_\_ 項

☐ 図面 第 \_\_\_\_\_ ページ/図

☐ 配列表 (具体的に記載すること) \_\_\_\_\_

☐ 配列表に関連するテーブル (具体的に記載すること) \_\_\_\_\_

\* 4. に該当する場合、その用紙に "superseded" と記入されることがある。

## 第V欄 新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についての法第12条(PCT35条(2))に定める見解、それを裏付ける文献及び説明

## 1. 見解

新規性(N)

請求の範囲

1-57

有

請求の範囲

無

進歩性(IS)

請求の範囲

16-19, 28

有

請求の範囲

1-15, 20-27, 29-57

無

産業上の利用可能性(IA)

請求の範囲

1-57

有

請求の範囲

無

## 2. 文献及び説明(PCT規則70.7)

文献1: JP 2001-40512 A (株式会社セフト研究所), 2001. 02. 13.

文献2: JP 2002-201507 A (キヤノン株式会社), 2002. 07. 19.

文献3: JP 63-159505 A (日本電気株式会社), 1988. 07. 02.

文献4: JP 2003-230178 A (ソニー株式会社), 2003. 08. 15.

請求の範囲1-15, 20, 22, 24-27, 29-35, 38-48, 50-57に記載された発明は、国際調査報告で引用した上記文献1により進歩性を有しない。文献1は、メッシュ部22a、スぺーサ22c、吸引孔22b、ファン23、ファン23を駆動するための電源を有する冷却服を開示する。また、文献1は除湿部50を設ける点も開示する。そして、ファンの流量、空調能力については、空調効果等を考慮して当業者が適宜設定しうる事項にすぎない。なお、衣服の各部に対し、必要に応じて防水或いは撥水加工を行うことは周知技術にすぎない。

請求の範囲21, 23, 36に記載された発明は、文献1及び国際予備審査で新たに引用する上記文献2により進歩性を有しない。文献2は排気部近辺を密閉する部分7, 8, 9を設ける点を開示する。そして、文献1に開示された冷却服の裾部に対し、文献2に開示する密閉手段に係る技術を適用することは、当業者であれば容易である。

請求の範囲37に記載された発明は、文献1及び国際予備審査で新たに引用する文献3により進歩性を有しない。文献3は腰部分にビニール製パイプを設ける技術を開示する。

請求の範囲49に記載された発明は文献1及び国際調査報告で引用する文献4により進歩性を有しない。文献4はインターネットを介してデータを取得するシステムを開示する。

請求の範囲16-19, 28に記載された発明は上記文献1-4に記載されておらず、またこれら文献から容易に想到しうるものとは認められない。

第Ⅷ欄 国際出願に対する意見

請求の範囲、明細書及び図面の明瞭性又は請求の範囲の明細書による十分な裏付についての意見を次に示す。

明細書第22頁第29行、第23頁第14-15行、第24頁第11-21行、第29頁第20-第30頁1行及び請求の範囲第19項等に記載された「マジックテープ」は登録商標である。「面ファスナ」等の一般名称に訂正することが望ましい。  
請求の範囲20は、請求の範囲1-6を引用しているが、請求の範囲1-6には空気案内手段の前部を開閉するための開閉手段に係る記載は認められない。